

愛教労、愛知県人事委員会との交渉を行う!

愛教労は、9月15日に、愛知県人事委員会と交渉を行いました。「賃金切り下げ勧告を行わない」「超過勤務縮減勧告」「養護教諭の待遇改善」について要請をいたしました。

賃金切り下げの人事院勧告に追随するな! 長時間労働を改善する勧告を行え!

愛教労は、9月1日に三の丸庁舎において、愛知県人事委員会と交渉を行いました。

今年の「要求書」では、県人事委員会勧告に向けて、「人事院勧告に追随することなく、賃金切り下げを行わないこと。」「超過勤務縮減へ向けた具体的措置を講じること。特に、労働時間の現認の徹底、超過勤務の振り替えなど教職員の異常な長時間労働を改善する



人事委員会に要求書を渡す内田議長

よう勧告すること。」「さらに、「養護教諭の複数配置を拡充するよう勧告すること。また、養護教諭の再任用に関して、一般の教諭と同じ週19時間20分の勤務を認める

こと。また、養護教諭の再任用においては、現在の週38時間45分か19時間20分の勤務のどちらかを選択できるように勧告すること。」「を要求しました。

さらに、「憲法とILO勧告、およびCEART勧告に基づき公務員労働者の労働基本権を保障するなど民主的公務員制度確立にむけ積極的に政府に働きかけること。」「違法な状態にある教職員の深刻な超勤を是正するためにとりくむとともに、労基法37条にもとづく時間外手当の支給について国に働きかけること。」「や「人事委員会」で「パワーハラスメント防止指針」を早急に策定すること。」「も掲げ、要求しました。

人事委員会は、勧告対象の2/3に該当する教職員の勤務状況を把握せず!

人事委員会は教職員の膨大な超過勤務については、「重要な課題であること」を認識している。「人事院の0.2か月の一時金大幅削減については、残念なことだと思っ



9月15日三の丸庁舎で人事委員会交渉

「県の職員に対して行われる」と言いつつ、教員を除いた1/3の県職員の資料だけで勧告を行っており、2/3を占める教員の超過勤務について把握していなかったことが明らかになりました。愛教労は、人事委員会独自に教職員の勤務状況を調査をするよう強く訴えました。

パワーハラ指針作成の勧告をせよ! 人事委員会は差別的対応をやめよ!

人事委員会は、この数年来要求している「パワーハラ指針を作るよ

る向きの姿勢を示し、今年の勧告についてのスケジュールについても明らかにしませんでした。愛教労は、「人事委員会の傍聴は原則自由である。また、交渉については他組織と差別せず、責任ある担当者が参加すること。勧告は、全ての労働組合・団体との話し合いの後作成すること。」「を改めて要求しました。

「夏の学習会」 分科会の報告

8月20日、愛教労は、労働会館で「夏の学習会」を開きました。

8月20日、愛教労は、労働会館にて「夏の学習会」を開きました。午前中の講演は、「教職員にとつての労働基本権を考える」全教の米田氏による労働基本権の学習会でした。午後は、4つの分科会に分かれ各地の組合運動の成果や問題点について話し合われました。以下に分科会の内容を報告します。

【第1分科会】

「今、労働基本権を学ぼう」
 初めに、尾南教労から、教労設立時に県人事委員会との間で登録をめぐるトラブルについて報告がありました。県への登録手続きで、従前とは異なり組合の規約や組合員のメンバー構成など文書受理に関して詳細な資料を求めら

れ、果たして必要なのか疑問が出されました。愛知地区の規約改正でも同様な指摘がありました。また、三河教労でも改正届けの期日に対して厳しく対応がなされました。一方、瀬戸市職労・瀬戸市教労は毎年を更新を録していないが交渉していると報告がありました。

交渉についての論議の中で一宮市では、今年から要求書の回答を文書(フロッピー)で得ています。また、毎回交渉内容を録音して確認しています。校長会からもフロッピーで文書回答を得ています。知多教労では、「話し合い」として事前に送ってある「要求書」「話し合いのレジュメ」に基づいて確認をしています。

名古屋からは、「市教委交渉出席者問題」について報告がありました。名古屋市では、名教組・名高教・事務職・ASKとの交渉では、教育長や教職員課長が出席しているが、名教労に対しては課長も出席せず抗議をしています。が、地公法55条4項「決定権のある人」「当局の指名する者」という条項を盾に課長補佐しか出さない現状があります。9月に調停申立書を名古屋簡易裁判所に提出しました。

【第3分科会】

「組合活動を工夫し仲間を増やそう」
 一宮教組から「希望を生み出す組合活動」のレポートの中で、①学習会に組合員以外の人特に若い人が参加、②交渉に向け要求アンケートを250人から集約③代議員会での職場交流実践発表の時間設定④職場作りで要求を集約。それに対して参加者から「若い人

